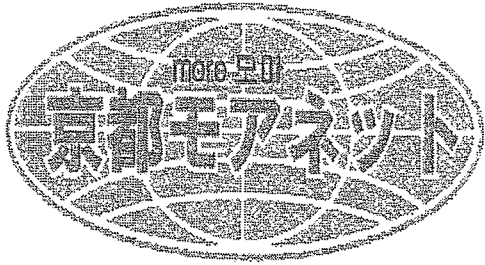


京都外国人高齢者・障がい者生活支援ネットワーク「モア」



2007/4/1

モア通信 NO.01

〒601-8007 京都市南区東九条北河町5
TEL 075-681-2721 FAX 075-681-2722
E-MAIL kyotomorenet@guitar.ocn.ne.jp

一周年を迎えて

昨年3月の京都モアネット設立の集いには、240名を越える方がお集まりくださり、モアネットの活動に多くの期待が寄せられていることを強く感じる発会となりました。それからはや一年がたちました。

モアネットが設立された背景にはいくつかの歴史的経緯があります。その1番目は日本の外国人施策と在日コリアンの制度差別撤廃の闘いの歴史です。在日コリアンは、日本の植民地政策により定住するようになりましたが、戦後の社会保障政策の下で年金・公営住宅・公庫融資をはじめ様々な社会保障を受けることができませんでした。70年代ころから始まる差別撤廃の闘いと難民条約批准を契機に、多くの制度改正をもたらした。地方行政における施策にはかなりの変化が起こりました。しかし、法律や国政においては未だ根本的な転換点を迎えるところまでには至っていません。

近年では、制度的に排除され無年金状態に置かれた高齢者・障がい者に対する支援の取り組みが始まり、活動の盛んなところでは地方自治体も特別給付金の支給を行い福祉的観点での救済を行っています。日本政府は「学生無年金問題」の救済は考えても、国際的非難を受けながらも在日無年金者の救済には排除の姿勢を変えようとはしていません。実際には重い財政負担にならない在日無年金者の

救済をすることで、他の外国人施策へ波及することを恐れているのだとか考えられます。「国際人権規約は努力目標」、「自国民を優先するのは当然」、「外国人は日本の国益に反する管理対象」というのが、200万人を越える外国人を抱える日本社会の外国人施策の現実なのです。ここに根本的な変化が起こることを恐れているのです。

2番目の点は、この30年余りの差別の闘いが、在日コリアンの意識変化と活動の性格に変化をもたらしたことです。活動を担ってきた経験のあるものは、制度改正だけでは生活実態にある問題に 대응することができないことに気づき、それへの対応を、迫られました。

権利を得てもそれを使う方法が提供されず、(というよりも、行政側に必経験やノウハウが無く) 実質的に排除される現実と直面したのです。それまでの活動家をはじめ、志ある人たちが福祉事業や非営利活動事業を始めて自らが制度サービスの提供者になり、在日コリアンが使える形に制度を消化する工夫をしています。地域、介護現場、医療など、様々な個人、団体が思いをもつて活動してきました。介護保険事業にその例が多く見られますが、障がい者に対する事業はまだ端緒にいたばかりです。

これら先駆者たちの影響を受け、在日社会全体の意識にも変化が起こってきました。京都においては民団・総

聯の既存組織とエルファが無年金問題で10年間共闘してきた実績をもとに、共通の課題で緊急性を要する高齢者・障がい者の生活支援を行うネットワークを構築し、NPO/NPO・専門家・民族団体が緊密に連絡を取り合い行政と協働して問題解決に当たってゆくことができないか話し合われ生まれたのが京都モアネットでした。

3つ目の点は、日本社会の福祉に対する考え方の変化があります。これまで日本社会の社会福祉は法律ごとに進められ、高齢者、障がい者、児童、生活保護など制度別に制度に会う問題だけを捉えて総合性を持つことができないでいるうえに、定住外国人に見られるような社会的な排除や孤立という問題は捉えられていませんでした。2000年に社会福祉法が改正されましたが、その基礎になった社会福祉基礎構造改革案はソーシャルインクルージョンを理念にした新しいシステムを作ったゆき、福祉における人権の確立、総合性の確保、コミュニティ(地域)福祉の充実をめざすというものです。実行方法としてコミュニケーションと行政が協働する新しいシステムが重要視されています。

京都モアネットの外国人を対象にした生活支援活動は「問題の発見」福祉ニーズの発見に初期段階の大きな意味があり、次の段階として具体的生活支援のため総合的なアプローチを可能にするシステムをみんなで考えて育ててゆくことにあると思います。

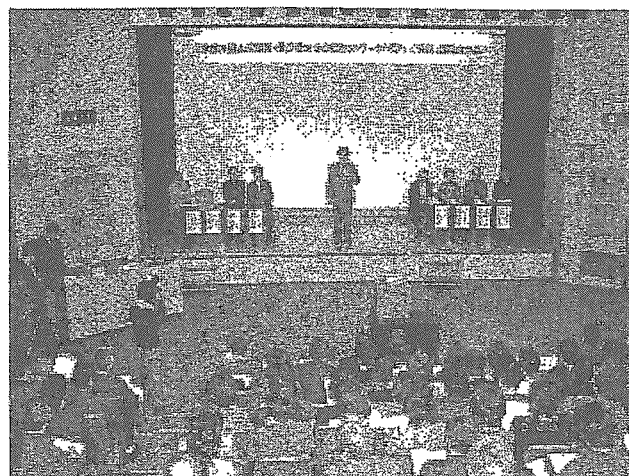
モアネット設立の集い

これまで在日外国人高齢者のための社会福祉サービースに取り組んでいたNPO法人と民族団体の総聯・民団、学者、司法書士、医師らの個人が連携し、2006年3月20日、京都ハートピアで在日外国人（日本籍含む）高齢者障がい者の生活支援ネットワーク「京都モアネット」を設立しました。在日外国人高齢者に対する生活支援への取り組みは全国的に広がっているものの、既存組織の枠組みを超えてのネットワーク作りはこれが全国で初めてです。

「モア」はハングルで「集める」の意味で、英語の「MORE」のもっとの意味も含んでいます。

設立総会には民団（金有作団長）、総聯（金学福委員長）関係者や、呼びかけ人、賛同者ら240人が参加し、共同代表に加藤博史龍谷大学教授ら4名を選出しました。加藤博史共同代表は「今後、自治体とも連携し、京都モアネットに相談すればどこかにつないでもらい、支援を受けられる場を育てる為、皆さんの力を結集しましょう」と呼びかけました。

来賓の京都府保健福祉部・高齢支援室 大西正洋副室長、京都市保健福祉局長寿社会部長寿福祉課 松本重雄課長、地域福祉センター希望の家 黒澤弘和所長（希望の家児童館館長）、東九条のぞみ支援センター 叶センター長などの方々からも期待と支援の言



葉が寄せられました。

顧問

小澤 亘 立命館大学教授

金 学福 朝鮮総聯京都府本部委員長

金 有作 韓国民団京都府本部団長

田中 宏 龍谷大学教授

鄭 禧淳 京都コリアン生活センター「エルファ」理事長

仲尾 宏 京都造形芸術大学客員教授

水野直樹 京都大学教授

共同代表

加藤博史 龍谷大学教授

金 周萬 民団福祉事業推進委員長

金 基錫 京都同胞生活センター副会長

朴 錫勇 京都コリアン生活センター「エルファ」副理事長

「エルファ」副理事長

「エルファ」副理事長

「エルファ」副理事長

外国人福祉員養成研修会

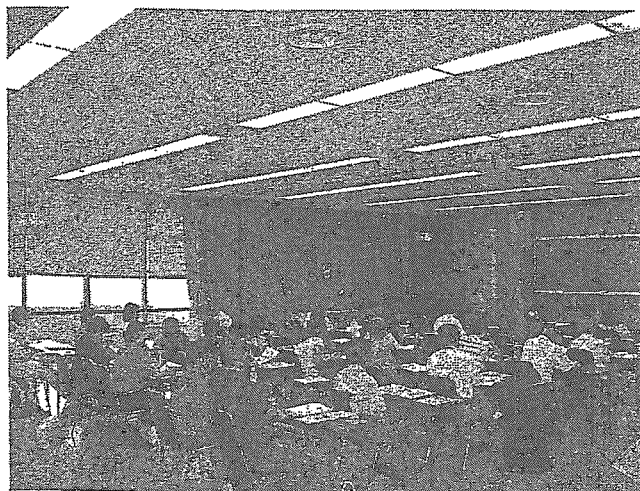
京都モアネットの目指す活動の担い手である「外国人福祉員」を養成するための研修会が2006年8月2・3日の両日、中京区役所において開催されました。

「外国人福祉員」とは、京都在住の外国人（日本籍含む）高齢者・障がい者が保健・福祉・医療に関するサービスを平等に受けられるよう、京都に暮らす外国人家庭に訪問して相談等の支援や、地域でみまもり等の支援をおこない、歴史性と民族性や習慣に配慮しながら一人一人の高齢者・障がい者の生活・介護状況を把握して、必要であれば、専門機関、関係機関につないで連絡調整等の実務を行う活動をするボランティアのことを言います。

このような活動には、知識と情報がある程度必要で、そのための研修を終えた人を「外国人福祉員」として登録しています。今回の研修会には41名が参加し、34名が「外国人福祉員」として登録されました。

研修会内容

- ① コミュニケーション・エンパワメント（龍谷大学 加藤博史）
- ② 高齢者の理解（北山通りソウクリニック院長 宋仁浩）
- ③ 高齢・障がい外国人籍市民の理解（関西学院大学 朴鐘鳴）
- ④ 高齢者福祉・介護保険制度（長寿福祉課 池上和夫・介護保健課 遠山陽一）



- ⑤ 国保制度・老人保健・福祉医療（保健年金課 志摩裕文・年金老人保健係 田中曉・地域福祉課 医療係 岡田貞晶）
- ⑥ 現状と現場から（NPO法人京都コリアン生活センターエルファ 南珣賢）
- ⑦ 記録・報告・連携・守秘義務（東九条のぞみの園センター 叶信治）
- ⑧ 障がい者福祉（障害企画課 和田隆宏）
- ⑨ 障がい者の理解（四天王寺国際仏教大学 植英弘）
- ⑩ 高齢・障がい外国人籍市民の理解（多民族多文化共生を目指し（京都造形芸術大学 仲尾宏）

外国人福祉委員活動報告

外国人福祉委員（訪問・見守り・相談受付等）2006年4月～2007年2月19日の活動実績報告

京都モアネットとしての相談実施件数は約186件あったが、モアの外国人福祉委員が独自に対応した件数は72件になる。それ以外は、活動人員不足のため、従来の経験のある者がボランティアで対処した。

＜活動72件の内容＞

- ① 文化・言語背景をふまえた安否確認と情報提供、傾聴などの生活（衣食住）と精神的安定 13件
- ② 在日の認知症の高齢者について医療生活・介護相談 20件
- ③ 通訳4件（韓国・朝鮮語2、英語1、英独伊仏語1）医療通訳2件（韓国・朝鮮語） 6件
- ④ 言語・異文化によるコミュニケーション問題 15件
- ⑤ 文化生活習慣等の違いによる問題 5件
- ⑥ 歴史経緯と母国分断から派生する法的問題 3件
- ⑦ 件社会保障制度など所得保障の問題と精神的負担 6件
- ⑧ 差別問題 2件 ⑨ その他 2件

＜活動報告の詳細＞

○京都市内は、とりわけ独居高齢者が多く、その方々のケアが多い。
・生活状態の安定維持を図る。
・精神的安定を図る。

・高齢者の住居問題。

・情報不足の状態に陥りやすい独居高齢者の生活状態を見守り、適時適切な機会にサービスの手をさしのべられる見守り、情報交換も含めたケアの連携。

○言葉の問題。そのため、日常的なコミュニケーション不足の問題。情報不足。

○介護上の問題。人間関係、文化生活習慣からくる問題。

○医療通訳派遣。
○在日外国人高齢者の所得困窮とそれによって派生する精神的問題。

○母国が外国であるため、日本に身寄りのない高齢者の介護保険制度ではまかなえないケア。

○在日コリアン高齢者の植民地時代の体験、解放後の日本社会での差別の下での生活状態から、精神的に解放されていない心の問題、心のケア。

○在日コリアンの旧植民地出身者であり、母国が分断しているという歴史的経緯からくる特殊な状態と法的に特殊な問題
○在日外国人と暮らす日本人からの相談

○在日コリアンの障がい者とその親の生活と社会保障制度についての問題

○在日コリアン（二世）障がい者の言葉とは違う、コミュニケーションの問題と精神的不安

○民族的文化・習慣の違いによる問題。

（相談、訪問、見守り活動における問題点と課題）

1. 京都市役所、市内全区役所内において、京都モアネットの活動、外国人福祉委員の存在がまだ周知されておらず、こちらが身分を明かして当事者の相談の話をしてもなかなか、情報交換、支援の連携が組めない。結局、支援すべき情報、方法は持つていても有機的に支援を進めることができないことが多い。

2. 1.と同様に、その当事者を担当している医療・福祉に携わる職員、福祉事務所のケースワーカーなど、専門機関、関係機関の担当職員との連携、情報交換が支援活動にあたって、切に必要であること。要支援者に生活保護受給者が多いため、特に必要と強く思われる。

3. 相談件数が多い割に、活動できるスタッフ、外国人福祉委員がまだ不足している。連絡を受けなくてもいまだ対応できない件数がたくさんある。

4. 支援を進めていくにあたって、ネットワークの構築が急務である。しかし、現状では、当事者との連絡でさえも取り難い状態である。支援の連携体制を構築するにあたって、すべてボランティア

では無理で、限界がある。専属スタッフは少なくとも一人は必要である。

外国人福祉員からの感想

外国人福祉委員 小野裕子さん
2007年2月16日送信

私が外国人福祉委員として担当するのは、70歳代のオモニとその娘さん（統合失調症）です。

在日コリアンの方にとっては、傾聴の相手が日本人ということで警戒されたと思います。

しかし、徐々に傾聴の回数を重ねるうちに、お互いの緊張も解けてきて、冗談もできるようになりました。

オモニの人生は波乱万丈。仕事をもちながら4人の子育て、義父の介護、自身の病氣、けがを乗り越えがんばる日々です。

国の政治のため、家族が引き裂かれる痛みは、体験者でなければ分からないものだろうが、胸に突き刺さります。オモニは、その辛さを「血の涙」という言葉で表わされた。

彼女の話を聞いてみると、自分がいかに楽な人生を送ってきたのかを痛感。毎回興味深く、傾聴しています。

おたがいに信頼関係ができ始めたころ、鄭さん（事務局）から、より実質的支援の方法を考えるようアドバイスを頂き、現在、模索中です。彼女たちの気持ちに寄り添いながら試行錯誤でやっていきたいと思っています。

シンポジウム開催

「多文化共生の福祉社会をめざして『Hyogo』」をテーマに、初めて京都モアネットが主催して、3月9日（金）18時半から、キャンパスプラザ京都第3講義室で、シンポジウムを開催しました。後援として、京都府、京都市、社会福祉協議会にもご参加いただきました。来年度は京都市との共催を実現できるように思っております。

内容は、京都在住の外国（日本籍含む）人の地域福祉の現状と今後の課題について、福祉・介護・生活支援・通訳など現場に携わる専門家、スタッフからの報告（現状と課題点提示）と外国人も住みやすい町づくりのため、今後の地域福祉のあり方についてディスカッションを行いました。

参加者は、約120名を迎え、基調報告とディスカッションで約2時間半が、とても密度の濃いものになりました。

仲尾宏先生（京都造形芸術大学客員教授・京都モアネット顧問）の開会の挨拶で始まり、基調講演に、中山徹先生（大阪府立大学教授）が「在日高齢者福祉の課題」と題して報告しました。中山先生が約10年以上もの期間にわたって大阪市、大阪府内で在日コリアン高齢者の生活実態調査をしてきた報告をしました。

休憩を挟まず、加藤博史先生（龍谷大学教授・京都モアネット共同代表）の進行で、活動現場からの報告とディ

スカッションが始まりました。

報告者

① NPO法人多文化共生センターきょうと事務局 重野亜久里
「医療通訳の現状」

② 京都市 福祉事務所 中国語通訳者 飯田奈美子
「通訳活動を通じて 一中国帰国者とその家族の現状」

③ 京都モアネット 事務局 鄭明愛
「モアの活動と課題」

それぞれ、京都で外国人の生活支援に活動している現場からの報告がありました。京都市在住の外国人の数としては、在日コリアンが圧倒的に多いのですが、在日コリアンの生活支援の取り組みが、行政との関係で始められたのは今回が初めてで、活動報告には、中国人帰国者を対象としたものが目立ちました。

最後に、当日のシンポジウムの運営に京都市長寿福祉課、障害企画課、国際課推進室の担当者も協力いただき、課長の高橋さんに挨拶をいただきました。



京都市の外国人統計（国勢調査）

2005年（平成十七年度）

再掲 65歳以上		京都市国籍別外国人登録者数		
3,983	80.5%	韓国・朝鮮	28,426	66.7%
157	3.2%	中国	8,175	19.2%
45	0.9%	米国	1,051	2.5%
4	*	フィリピン	957	2.2%
5	*	英国	354	0.8%
*	*	オーストラリア	284	0.7%
*	*	カナダ	280	0.7%
*	*	フランス	264	0.6%
0	0	タイ	242	0.6%
752	15.2%	その他	2,585	6.1%
4,946	100%	総数	42,618	100%

日本国籍取得者数（全国）

過去累計		204,622		
	合計	コリアン	中国	他
1997	15,061	9,678	3,976	621
1998	14,779	9,561	4,637	581
1999	16,120	10,059	5,335	726
2000	15,812	9,842	5,245	725
2001	15,291	10,295	4,377	619
2002	14,339	9,188	4,442	709
2003	17,633	11,778	4,722	1,133
2004	16,336	11,031	4,122	1,183
2005	15,251	9,689	4,427	1,135
累計	140,622	91,121	46,012	8,086

第一回総会のご案内

日時：7月21日（土）18時
会場：エルファセンター2階
（東九条北松ノ木町12）
TEL 693-2550

* 終了後、懇親会があります。
* 会員及び入会希望、ご関心のある皆様へ、ご参加ください。
なお、議決権については会員のみとさせていただきます。
また、当日入会も受付します。

★外国人福祉委員養成講座は、今年も8月に予定しています。詳細は事務局までご連絡ください。

京都外国人高齢者・障害者生活支援ネットワーク・モア
★会員募集中

2007年度もよりいっそうの活動を広げてまいります。
ぜひとも、会員、賛助会員など、募集しております。ネットワーク拡大にご協力をお願い申し上げます。
個人1,000円、
団体5,000円、

郵便振込口座：
00990-4-314429